

第64期 第2四半期株主通信

平成23年4月1日～平成23年9月30日

sawai

TODAY

patients
first



沢井製薬株式会社 ジェネリック医薬品のトップブランド

証券コード 4555

企業理念

なによりも患者さんのために patients first

- 1 「真心をこめた医薬品を通じ、
人々の健やかな暮らしを実現する」
それが **sawai** の使命です。
- 2 「創造性を追求し、
革新と協調により社会と共に成長する」
それが **sawai** の挑戦です。
- 3 「お役に立ちたいという心を持ち、
なくてはならない存在になる」
それが **sawai** の願いです。

CONTENTS

ごあいさつと業績のご報告/ 第64期 第2四半期連結財務ハイライト	1
経営戦略インタビュー	3
sawai TOPICS	5
四半期連結財務諸表(要約)	7
会社概要	9
株式情報	10

ごあいさつと業績のご報告

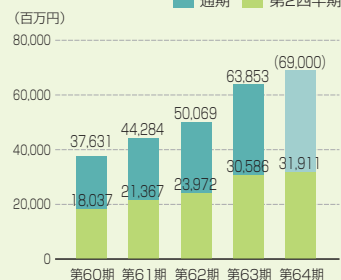


代表取締役会長
澤井 弘行

代表取締役社長
澤井 光郎

第64期 第2四半期 連結財務ハイライト

売上高



厳しい市場環境のもと、利益計画の達成に努めてまいります。

株主の皆さまにはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。第64期第2四半期の株主通信をお届けするに当たり、日頃からのご支援に厚く御礼申し上げます。

当期のジェネリック医薬品業界は昨年4月の「後発医薬品調剤体制加算」の見直しを含む制度変更等の使用促進策にもかかわらず、数量ベースシェアが23%程度と頭打ちの傾向が見られます。また、世界最大手ジェネリック医薬品メーカーによる国内有力ジェネリック医薬品メーカーの全株式取得、国内外大手新薬メーカーの長期収載品部門とジェネリック部門の一体化による営業強化など、競争環境はますます厳しくなっています。

こうした状況の下、当社グループは中期経営計画「M1 TRUST」の基本方針である「市場成長率を上回る売上高の伸長」「徹底したコストコントロールと効果的な戦略投資による経営体質のさらなる強化」「ゆるぎないサワイブランドの構築」に基づいた諸施策に取り組みました。特に営業面では6月収載の新製品を中心とした販売活動に取り組み、生産面では業界No.1の安定供給体制の維持・構築に向け9月末に関連

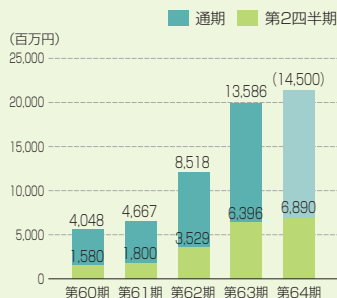
工場の敷地内において新工場の建設に着手しました。

これらの結果、当期の連結業績は、売上高31,911百万円（前年同期比4.3%増）、営業利益6,890百万円（同7.7%増）となりました。また、前年同期に計上した社債発行費が今期はないため、経常利益は7,021百万円（同27.7%増）、当期純利益は4,374百万円（同34.4%増）と大幅な増益を達成することができました。

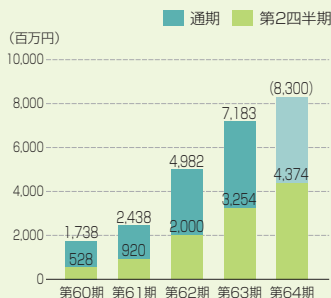
今期は中期経営計画「M1 TRUST」の最終年度です。ジェネリック医薬品業界全体の伸び悩みや競争の激化等、市場環境が厳しくなる中、通期の売上高計画を690億円に修正いたしました。医師への情報提供等の営業活動をさらに強化するとともに、コストコントロールを徹底することで、売上高計画の達成とともに、利益計画（営業利益145億円、経常利益144億円、当期純利益83億円）の達成に努めてまいります。

今後とも「なによりも患者さんのために」の理念のもと、さらなる飛躍を目指して邁進してまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

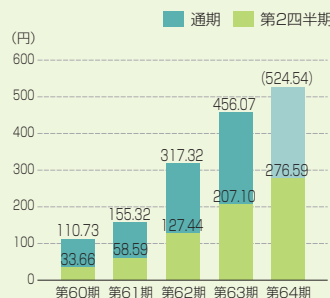
営業利益



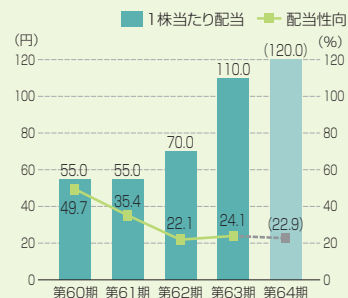
当期純利益



1株当たり当期純利益



1株当たり配当/配当性向(連結)



高い製剤技術で、ひとつ上の品質をお届けしたい。



医薬品は薬効・安全性だけでなく、服用しやすさや処方しやすさといった要素が大きな意味を持っています。そこで、高橋取締役 生産本部副本部長に、製剤への取り組みについて聞きました。

Q. 製剤技術とは何ですか？

製剤とは有効成分を、医師や患者さんなどが使用するのに適当な形に製することを言います。

医薬品にとって、効き目や安全性はもちろんですが、患者さんが飲みやすかったり、医療関係者の方が処方・調剤しやすいという点は、大変重要なポイントです。とくに先発品と同等の効き目、同等の安全性のジェネリック医薬品にとって、製剤の善し悪しは生命線。優れた製剤技術によって、他社のジェネリック医薬品との競争に勝つだけにとどまらず、先発医薬品に対しても差別化を図ることが可能になります。

Q. 高付加価値の製品には、どのようなものがありますか？

一つ目は、患者さんが服用しやすくしたものです。水なしでも口の中ですぐに溶け、イヤな味もしないOD錠などはその代表例です。二つ目は、医療関係者の方が処方・調剤しやすくしたものです。最後に、医師・看護師や薬剤師の方々の医療過誤をなくすための工夫。たとえば錠剤のひとつひとつに製品名を印刷するというのもそのひとつです。

次ページの製剤工夫例をご覧ください。いただいたらおわかりいただけると思いますが、製剤技術は「なによりも患者さんのために」という私たちの企業理念を具現化するものでもあるのです。

Q. 製剤技術センターの役割は何でしょうか？

ジェネリック医薬品メーカーは既存の有効成分を用いて新しい製剤を開発する会社ですが、製剤技術がキーテクノロジー（中核と

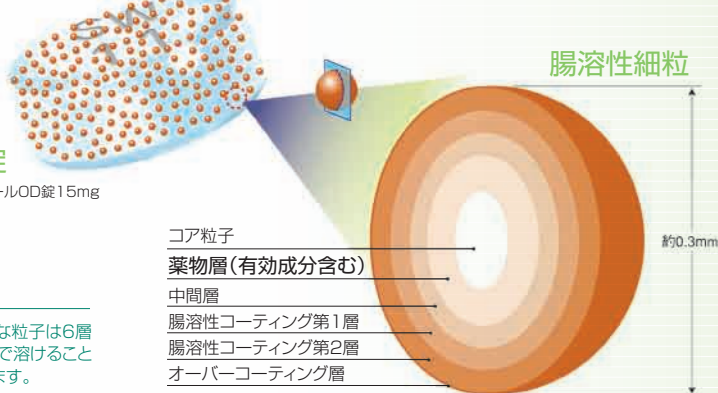
profile

取締役 生産本部副本部長 高橋 嘉輝(薬学博士)

京都大学大学院 薬学研究所修士課程卒
カネボウ株式会社(現クラシエ)、日本オルガン株式会社(現MSD)を経て
平成15年10月当社入社。平成17年6月取締役研究部長、
平成20年10月取締役生産本部副本部長兼技術部長、
平成23年10月取締役生産本部副本部長兼製剤技術センター長 現在に至る

口腔内崩壊錠

※イメージ:ランソプラゾールOD錠15mg



小さな一錠の中に、高度な技術がいっぱい!

錠剤のそのまた中にあるわずか0.3mmの小さな粒子は6層になっており、口で溶けた錠剤の薬効成分が、胃で溶けることなく腸まで届いて吸収されるよう設計されています。

なる技術)です。このキーテクノロジーをさらに発展させるために設立したのが、「製剤技術センター」です。製剤技術センターの基本的な役割は研究開発と生産の橋渡しをすることと、既存製品を改良することです。具体的には、最先端技術を導入・確立し、新製品を工場で量産できるようにするとともに、高品質な医薬品を安定して生産できるようにするのが私たちの仕事。生産効率の向上など、経営的にも重要な役割を担っているといえます。

また、既存製品を改良するには、生物学的同等性を保ちながら、製剤の処方、剤形や包装の点まで考慮しなければならず、簡単なものではありません。

Q. 工場の工程にも関わりますか?

そこに、「研究開発本部」の製剤研究部ではなく「生産本部」の製剤技術センターである意味があります。2012年度に稼働を始める関東新工場でも、生産予定品および他工場から製造移管する製品について工程を検証し、設計通りの高品質な医薬品が製造できることを確認します。

製剤工夫例

服用しやすさの向上	カプセルの錠剤化	大きくて飲みづらいカプセル剤を錠剤に変更
	錠剤の小型化	サイズが大きく飲みづらい錠剤を小型化
	飲みやすい錠剤	口腔内崩壊錠(OD錠)、ゼリー剤などに改良
医療関係者の方々の処方・調剤しやすさの向上	錠剤分割性の改良	二つに割りやすいように、錠剤の割線を工夫
	液注化	凍結乾燥注射剤、粉末注射剤を溶液注射にする
	安定性の改善	温度、湿度、光などに対する安定性を改善
医療過誤や安全性の改善	容器改良	アンプルやバイアルを割れにくくする
	キット製品	プレフィルドシリンジ、バッグ製剤など、そのまま投与できる製剤に改良
	表示の明確化	PTPシートなどに製品名、規格や薬効をわかりやすく表示。錠剤そのものに製品名を表示など

Q. 大変幅広い領域をカバーしているんですね。

私たちの業務内容は①新製品の工業化、②既存製品の改良(製剤の処方・製法の改良、包装の改良)、③工程改良(安定化・効率化)、④規格揃え(含量違い製品の開発)、⑤包装設計までカバーしています。薬学や化学の知識だけでなく、最新の包装材料や製造機械、また医薬品ならではの厳しいGMP(製造品質管理基準)に至るまで、幅広い知識が必要になります。大変ではありますが、患者さんや医療関係者の方に喜んでいただけるなど、成果が具体的でやりがいも大きいのです。

医薬品は中身が見えません。また機械のようにいかにも高度に見える複雑な構造や動きがあるわけでもありません。しかし、その中には多くの知識、技術と工夫、患者さんへの思いが込められています。私たちはなによりも患者さんのために「高い製剤技術でひとつ上の品質を、ひとつ先の製剤を目指す」を合言葉に、これからも患者さん、医師・看護師や薬剤師をはじめとする医療関係者の方から喜ばれ、「サワイジェネリック」として選ばれるブランドづくりに取り組んでいきたいと考えています。



錠剤への製品名表記

錠剤そのものに従来の製品コードではなく製品名を印字することで、医療過誤の防止を図る。

生産能力最大40億錠——国内最大級の関東新工場の起工式を実施。

関東新工場が2012年度中に第一期工事の完工をめざして、会長・社長出席のもと、起工式を行いました。千葉県茂原市に位置する関東新工場は、第一期工事で20億錠、第二期で20億錠、合わせて40億錠の生産能力を持ち、固形製剤・包装一貫工場としては国内最大級の工場となります。



経営陣とプロジェクトメンバー



完成予想図

ジェネリック医薬品メーカーで 好感度No.1。2年連続の快挙。

薬局・薬剤師向けの専門誌「日経ドラッグインフォメーション」誌が薬剤師を対象に行ったWEB調査で、当社がジェネリック医薬品企業好感度No.1*メーカーに2年連続で選ばれました。

選ばれた理由は「供給が安定しているから」(75.1%)、「取扱品目が多いから」(63.7%)など。「患者さんへの安定供給」を掲げ、ジェネリック医薬品メーカーとしての社会的責任を果たそうとする当社の姿勢が支持されていることが分かりました。

今後も高品質の医薬品の安定供給に努め、薬剤師さんからさらに支持される企業になっていきたいと考えています。

※出典：日経ドラッグインフォメーション 2011年10月号



高橋英樹さんが生活習慣病の患者さんと 語り合う新CMが7月からスタート。

当社のキャラクターとしておなじみの高橋英樹さんが生活習慣病の人々と語り合う姿を通して「生活習慣病にこそ、ジェネリックが力になれる」、という当社の想いを表現しました。



11月に12成分25品目の新製品を発売。

「アトルバスタチン錠」は、LDLコレステロールを下げる薬で、世界で最も多く使われている有望な大型製品です。製剤技術的に難しい製品であるため参入できるメーカー数が少なく、当社の研究開発力の高さを示すものでもあります。アルツハイマー型認知症治療剤「ドネペジル塩酸塩OD錠」は、苦味の抑制や甘味の改善も施され、口の中で溶け、水なしでも服用できる錠剤です。そのため、飲み込む力が弱くなった高齢者の患者さんのみならず、介護する方にとっても患者さんに服用させやすい薬剤となっています。また、当社は、ジェネリック

医薬品メーカーの中ではトップクラスの抗がん剤品目数を誇っていますが、「ゲムシタピン点滴静注用」の発売により、また一つ品揃えが増えました。患者さんのがん治療のお役に立てるよう今後も抗がん剤の強化に取り組んでまいります。



アトルバスタチン錠 10mg「サワイ」
ドネペジル塩酸塩OD錠 5mg「サワイ」
ロラタジンOD錠 10mg「サワイ」
ゲムシタピン点滴静注用 200mg「サワイ」

■主要新製品(2011年11月発売)

脂質異常症治療薬	アトルバスタチン錠5mg・10mg「サワイ」
アルツハイマー型認知症治療剤	ドネペジル塩酸塩錠3mg・5mg/OD錠3mg・5mg/細粒0.5%「サワイ」
アレルギー性疾患治療剤	ロラタジン錠10mg/OD錠10mg「サワイ」
抗がん剤	ゲムシタピン点滴静注用200mg・1g「サワイ」

抗がん剤ジェネリックのさらなる普及を目指し、医療関係者向けがん情報サイトをオープン。

当社では、より専門性が高く高付加価値の抗がん剤分野に注力していますが、医療関係者向けの情報提供の一環として、抗がん剤ジェネリック医薬品に特化した医療関係者向けがん情報サイト「sawai oncology」を9月1日にオープンしました。

当サイトでは、「ひとりでも多くのがん患者さんのお役に立ちたい。サワイの思いは、医療関係者の方々と同じです。」をコンセプトに、がん治療の現場に従事する医療関係者の先生方をサポートするための情報を掲載しています。

当社の抗がん剤製品情報のみならず、がん専門薬剤師の方へのインタビュー記事も掲載しており、同じようのがん患者さんの治療に当たっておられる医療関係者の方にとって参考になるような内容になっています。



四半期連結財務諸表(要約)

四半期連結貸借対照表

単位：百万円

科 目	当第2四半期連結会計期間 平成23年9月30日現在	前連結会計年度 平成23年3月31日現在
資産の部		
流動資産	78,429	77,494
現金及び預金	29,388	30,805
受取手形及び売掛金	22,279	23,284
たな卸資産	24,572	21,217
繰延税金資産	1,866	1,811
その他	340	397
貸倒引当金	△ 18	△ 21
固定資産	42,626	39,561
有形固定資産	34,181	32,316
建物及び構築物	18,511	18,278
機械装置及び運搬具	6,689	7,108
土地	4,955	4,949
リース資産	11	14
建設仮勘定	2,534	494
その他	1,479	1,471
無形固定資産	1,660	1,148
投資その他の資産	6,783	6,096
投資有価証券	6,435	5,702
長期貸付金	11	17
その他	377	440
貸倒引当金	△ 40	△ 64
資産合計	121,055	117,056

単位：百万円

科 目	当第2四半期連結会計期間 平成23年9月30日現在	前連結会計年度 平成23年3月31日現在
負債の部		
流動負債	26,986	25,810
支払手形及び買掛金	10,379	9,849
短期借入金	4,151	2,659
リース債務	6	7
未払金	7,358	7,734
未払法人税等	2,845	3,143
引当金	1,912	2,064
その他	333	352
固定負債	39,131	40,382
新株予約権付社債	30,587	30,662
長期借入金	6,825	8,161
リース債務	7	10
繰延税金負債	155	166
引当金	473	429
負ののれん	5	12
その他	1,076	938
負債合計	66,117	66,192
純資産の部		
株主資本	53,999	50,635
資本金	11,862	11,814
資本剰余金	12,185	12,137
利益剰余金	29,954	26,687
自己株式	△ 3	△ 3
その他の包括利益累計額	841	110
その他有価証券評価差額金	841	110
新株予約権	87	108
少数株主持分	8	9
純資産合計	54,937	50,863
負債及び純資産合計	121,055	117,056

四半期連結損益計算書

単位：百万円

科目	当第2四半期 連結累計期間 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日	前第2四半期 連結累計期間 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日
① 売上高	31,911	30,586
売上原価	16,284	16,343
② 売上総利益	15,627	14,242
③ 販売費及び一般管理費	8,736	7,845
営業利益	6,890	6,396
営業外収益	251	69
営業外費用	120	966
経常利益	7,021	5,499
特別利益	-	1
特別損失	12	56
税金等調整前四半期純利益	7,009	5,444
法人税、住民税及び事業税	2,701	2,044
法人税等調整額	△66	4
少数株主利益（△は損失）	△0	140
四半期純利益	4,374	3,254

Point ① 売上高

後発医薬品調剤体制加算の見直しを含む制度変更の影響を受けて、売上高が大幅に伸長した前年同期に比べ、当期はジェネリック医薬品の数量ベースシェアが23%と頭打ちの傾向が見られ、売上高は4.3%増の31,911百万円となりました。

Point ② 売上総利益

売上高の増加に加え、販売製品構成の改善と稼働率向上等による原価率改善により、売上総利益は前年同期比9.7%増の15,627百万円となりました。

四半期連結包括利益計算書

単位：百万円

科目	当第2四半期 連結累計期間 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日	前第2四半期 連結累計期間 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日
少数株主損益調整前四半期純利益	4,374	3,395
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	731	△1,312
四半期包括利益	5,105	2,082
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,105	1,942
少数株主に係る四半期包括利益	△0	140

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	当第2四半期 連結累計期間 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日	前第2四半期 連結累計期間 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,998	3,071
投資活動によるキャッシュ・フロー	△537	△8,421
財務活動によるキャッシュ・フロー	△878	28,145
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,582	22,795
現金及び現金同等物の期首残高	19,805	9,474
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,388	32,269

Point ③ 販売費及び一般管理費

人件費（前年同期比3億円増）、試験研究費（同3億円増）、広告宣伝費（同1億円増）等、将来の成長に向けた先行投資の費用が増加し、販売管理費及び一般管理費は前年同期比11.4%増の8,736百万円となりました。

Point ④ 建設仮勘定

関東工場の敷地内において新工場の建設に着手しました。

会社の概要 (平成23年9月30日現在)

社名	沢井製薬株式会社	
創業	昭和4年4月1日	
設立	昭和23年7月1日	
資本金	118億6,227万円	
従業員数	993名(連結)	
事業内容	医薬品の製造販売および輸出入	
販売品目	生活習慣病(高血圧症、脂質異常症、糖尿病等)治療剤、抗がん剤など医療用医薬品約550品目および一般用医薬品	
主要取引銀行	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行	
ご採用先	国立病院など全国約7,400病院(カバー率約84.3%)、約32,400医院・診療所(約31.5%)、および約48,500保険薬局(約87.0%)【平成23年3月31日現在】	
特約店及び販売代理店	特約店	アルフレッサ(株)、スズケン(株)、東邦薬品(株)、(株)メディセオほか広域卸約30社
	販売代理店	西部沢井薬品ほか販売会社約120社、海外1社
提携会社	旭化成ファーマ(株)、積水メディカル(株)、田辺三菱製薬(株)、日本化薬(株)、バイエル薬品(株)、扶桑薬品工業(株)、Meiji Seika ファルマ(株)ほか	

役員 (平成23年6月23日現在)

代表取締役会長	澤井 弘行	取締役	高橋 嘉輝
代表取締役社長	澤井 光郎	取締役	小玉 稔
常務取締役	岩佐 孝	取締役	澤井 健造
常務取締役	戸谷 治雅	常勤監査役	小西 俊明
常務取締役	木村 圭一	監査役	澤井 武清
常務取締役	横浜 重晴	社外監査役	上田 耕治
取締役	稲荷 恭三	社外監査役	菅尾 英文
取締役	徳山 慎一	社外監査役	高橋 孝志

本社・事業所・グループ会社 (平成23年9月30日現在)

本社・研究所	大阪市淀川区宮原5丁目2-30
支店	札幌、仙台、さいたま、東京、名古屋、大阪、広島、福岡
営業所	上信越、東京東、東京西、横浜、静岡、京都、神戸、北陸、高松、岡山、熊本
工場・研究所	九州工場、三田工場、大阪工場、関東工場、メディサ新薬九州工場、化研生薬八郷工場、製剤研究センター
子会社	メディサ新薬株式会社、化研生薬株式会社、ケーエム合同会社

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株主数	100株
配当金受領株主確定日	毎年3月31日および中間配当を行うときは毎年9月30日
基準日	定時株主総会については3月31日といたします。その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部

郵便物送付先 (電話照会先)

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-78-2031

取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

公告方法

電子公告としております。ただし、事故やその他止むを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
※公告掲載の当社ホームページアドレス
<http://www.sawai.co.jp/ir/index.html>

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告をなされる際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただきます。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

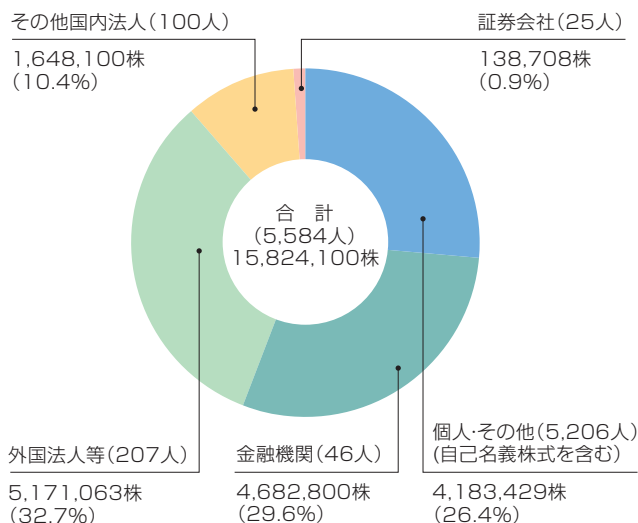
株式状況

発行可能株式の総数	38,800,000株
発行済株式の総数	15,824,100株
1単元の株式の数	100株
株主数	5,584名

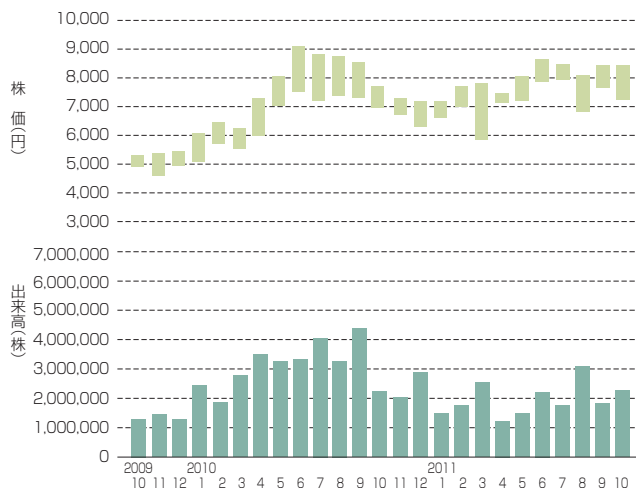
大株主

株主名	持株数
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,136,700株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	757,500株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	748,100株
サワケン株式会社	497,000株
澤井 光郎	474,100株
澤井 健造	474,000株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	341,969株
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	337,600株
澤井 弘行	315,500株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505044	315,500株

株式分布状況



株価 (高値・安値) および出来高の推移





コミュニケーション広場

— 株主さまアンケートから —



「第63期 株主通信」の株主さまアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
今回も427通と多くのご回答を頂戴しました。その中から株主さまのご意見に回答させていただきます。

株主さまの声

我が家の夫もジェネリックのお世話になっています。ジェネリックもようやく市民権を得たと思う。

株主の皆さまにはジェネリック医薬品の意義や安全性などについて理解いただき、実際にお使いいただいている方も多いようです。しかしその一方で、医療関係者の理解が十分でないという声も多く寄せられており、残念ながら、まだまだ市民権を十分に得たとは言えないのが実情と考えています。

当社ではジェネリック医薬品が市民権を得て、欧米のように浸透していくように、患者さんや一般の市民の方々への啓発活動とともに、医師や薬剤師などの医療関係者への情報提供活動に力を入れています。今回のトピックス(6ページ)で取り上げた医療関係者向けがん情報サイトもそのひとつですが、学会・セミナーなどへの協賛・出展にも積極的に取り組んでいます。

「なによりも患者さんのために」の理念のもと、こうした活動を通じてジェネリック医薬品のさらなる浸透を図り、社会貢献とともに業績向上に努め、株主の皆さまの期待に応えていきたいと考えています。これからもご支援をよろしく申し上げます。

株主さまの声

ジェネリックを希望しやすい環境づくり。医院でジェネリックを希望する方法が分からない。

ジェネリック医薬品への変更希望を医師や薬剤師にどのように伝えればよいのか分からないという声をよく聞きます。そのようなときは、ぜひジェネリック医薬品処方の希望を伝える「ジェネリック医薬品お願いカード」を保険証や診察券と一緒にご提示ください。きっと、相談に乗っていただけることと思います。

また、当社では、ジェネリック医薬品啓発のために「ジェネリック医薬品お願いカード」が付いている「ジェネリックハンドブック」をプレゼントしています。ご希望の方は当社ホームページよりお申込みください。



ジェネリック医薬品
お願いカード



ジェネリック
ハンドブック

沢井製薬株式会社

大阪市淀川区宮原5丁目2-30 〒532-0003
TEL: 06-6105-5711 FAX: 06-6394-7311
URL: <http://www.sawai.co.jp>